

公立大学政策・評価研究センターが 目指すもの - 内部質保証システム支援を中心に -

公立大学政策・評価研究センター長
浅田尚紀(兵庫県立大学)

事業仕分けが議論再開のきっかけ(H22)

◆事業仕分け結果に関する要望(H22.5)

- 機構の認証評価事業を継続
- 国立大学を中心に設計された評価のあり方を改め
- 評価研究部の専任教員、評価委員に公立大学や私立大学の特徴や課題に詳しい運営経験者や研究者を大幅に増やすこと。

◆総会においてテーマ討論(H22.5)

設置形態別の認証評価
では、客観性、公正性の問題も
出てくる(基準協会:工藤部長)

認証評価機関を、
公大協が主導して設立することが
必要(機構:荻上教授)

現状の評価は、公立大学にとって
客観的・公平的と判断することはできず
公立大学としての経験を積む
必要がある(矢田会長)

◆認証評価と法人評価に関して調査を実施

認証評価に関する調査(H22.10)

- ◇ 公立大学にふさわしい評価基準や公立大学を理解する評価委員が必要。
- ◇ 公立大学の評価に関する情報共有システムや共通の研修の取組みが必要。
- ◇ 自由な討議で、評価者・被評価者が双方向で学べる評価となるべきである。

公立大学法人に関する調査(H22.7)

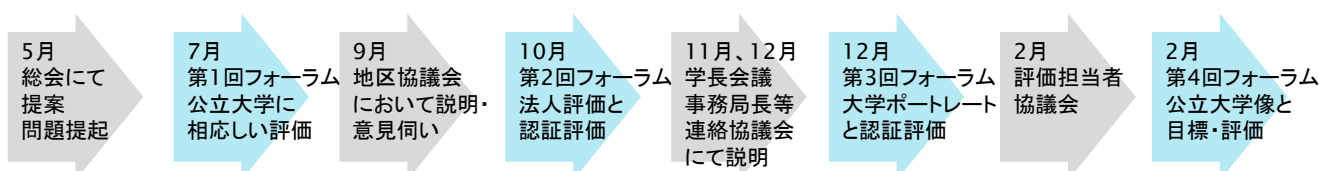
- ◇ 教育研究は、年度評価では客観的・外形的な進行把握に限定のほすが、質や内容にまで言及される。
- ◇ 認証評価と法人評価の一体的実施が必要。

総会提案

- ▶ 認証評価について、場合によっては評価機関設立も含め検討
- ▶ 提案の背景には、公立大学特有の課題が。
 - ▶ 第一サイクルでは公立大学の実情が理解されないままの評価が散見。
 - ▶ 大学評価・学位授与機構の評価手数料の大幅値上げ。
 - ▶ 同じく機構が認証評価から撤退の懸念(短大評価からは既に撤退)。
 - ▶ 公立大学法人評価の実施方法が設立団体によって相当異なる。

平成24年度に本格的に質保証に関する検討を行う

- ▶ 震災復興支援により中断していた評価に関する検討を再開
- ▶ 専門的な検討に先立ち「特別委員会」にて情報収集を開始
(文部科学省、認証評価機関、高等教育研究者等へのヒアリング)
 - 認証評価機関の認証に関する基準・機関の要件について情報収集
 - フォーラムや協会の各種会議を通じ意見収集
- ▶ 大学改革実行プランでも「評価制度の抜本改革」が必要との問題意識あり
- ▶ 4回のフォーラムや学長会議等で議論を重ねる



明らかになった評価の改善に関する主要な論点

① 認証評価をめぐる様々なすれ違いの克服が必要

→ 実際の受審に際し、評価機関と大学との間にすれ違いが存在。

評価機関側の認識	公立大学側の認識
自己点検評価書をつぶさに評価したことを明示するため評価報告書で再度記述している。	自己点検評価の要約中心で、指摘事項は1ページしかない。
バックヤードでは、どのように評価をするかを巡って、本質的で豊かな議論が展開されている。	実地調査での評価委員との議論は有意義だが、肝心なところの評価の経緯はブラックボックス。
大学の納得感を得るために、異議申し立ての機会を保障している。	評価報告書の認識間違い等に関し、訂正をお願いしても受け付けてもらえない。
大学の評価は普遍的なものであり、実績ある評価委員が評価している。	何度説明しても、公立大学特有の課題について理解してもらえない。

② 認証評価の簡素化が求められている

- 評価基準の簡素化が必要。
- 評価報告書の簡素化も有効。

③ 法人評価と認証評価の関係性の整理が必要

- 異なる法制度の間で地独法79条の「踏まえ方」などがあいまい。
- 現在の法制度の中での実績を整理し、設立団体が参照できる情報を提供。

5

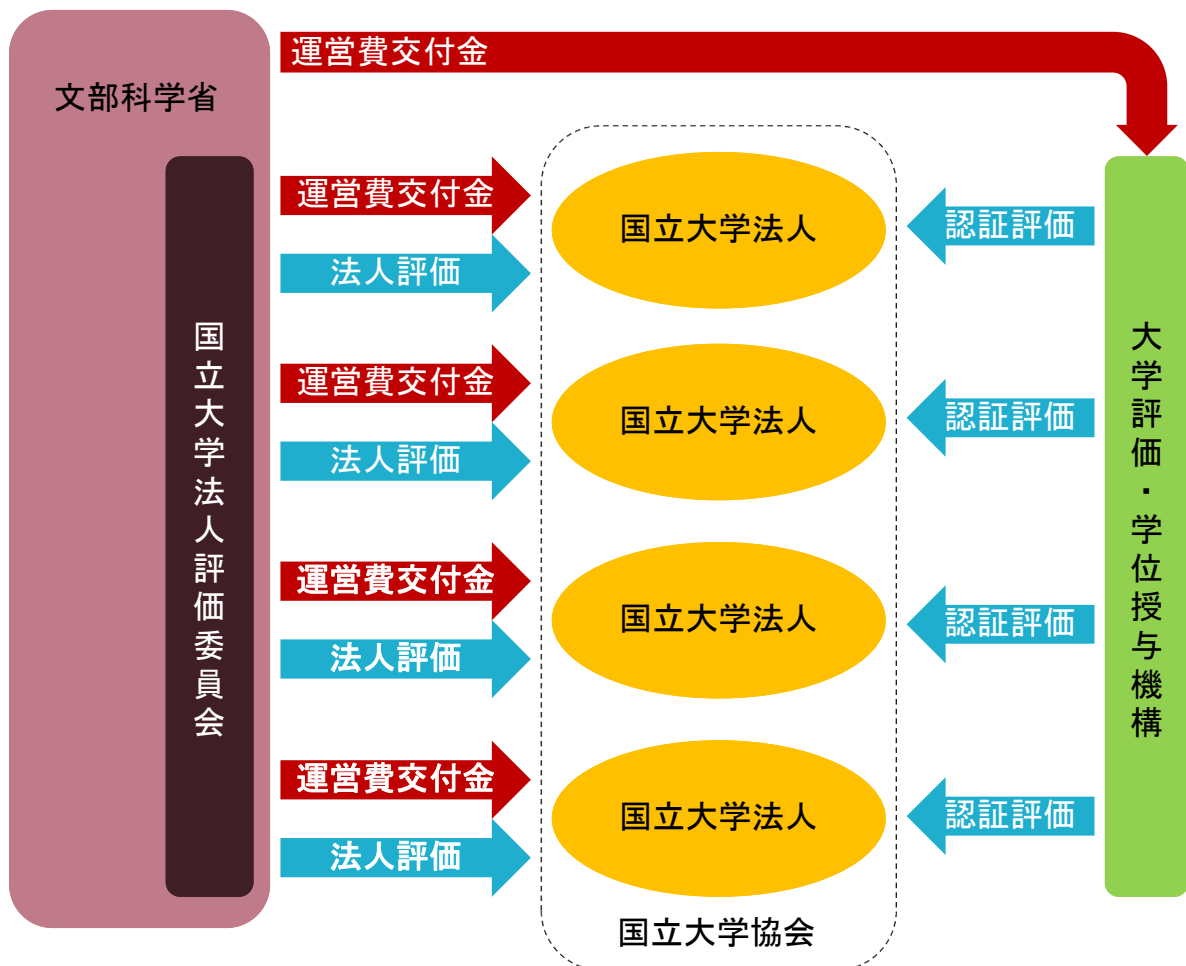
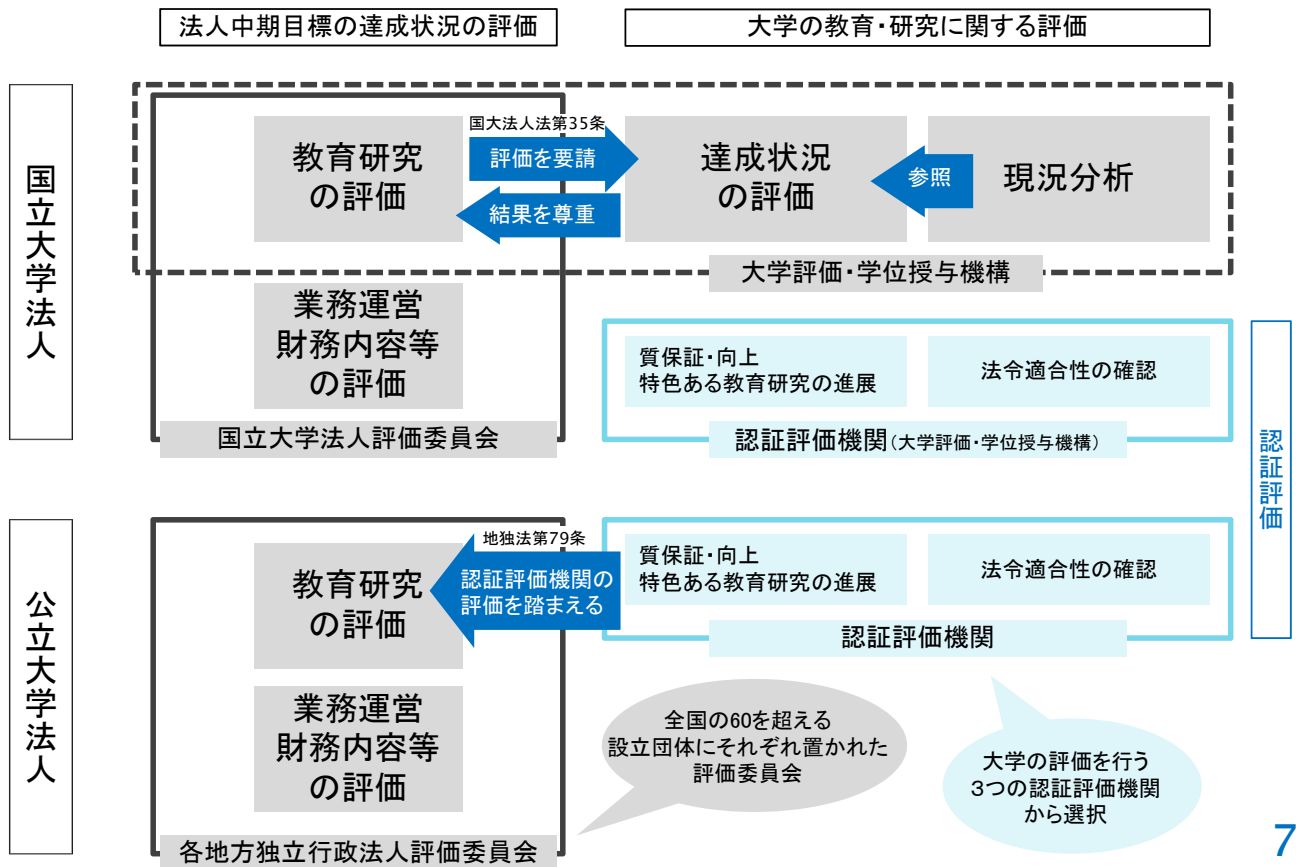
簡素な評価フォーマットの検討

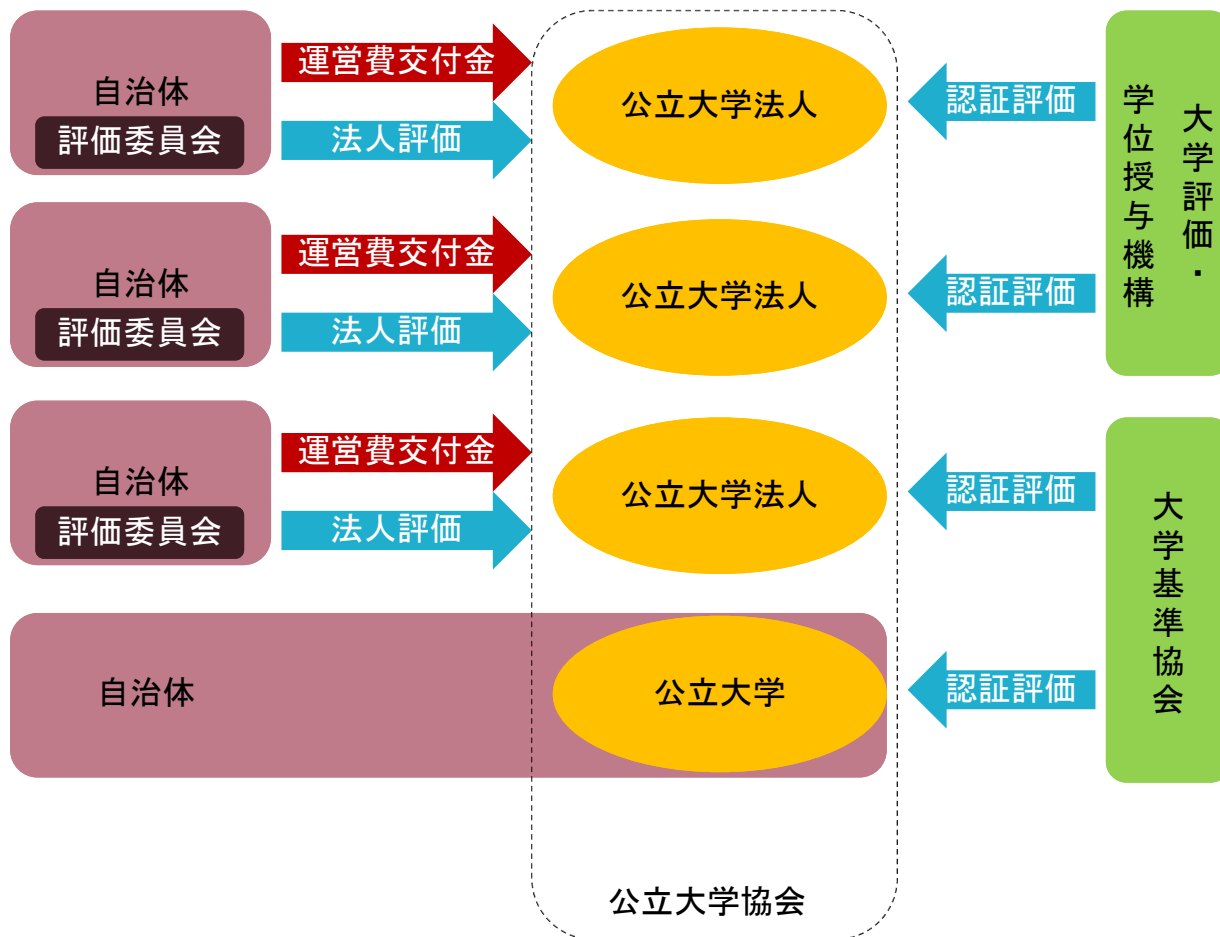
基準例：

大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

		自己評価	優れた点 改善を要する点	公立大学法人等における 目標・計画、その評価等	エビデンス (リンク集)
大学が独自に設定する評価項目	個別活動に関する項目				
	① ○○学科の教育における地域貢献の役割				
	② 学部生対象「副専攻」の取組み				
	③ …				
	活動の改善に関する項目				
	① より多くの教員の共同作業としての地域貢献を実現しているか。				
② 地域との連携についてより有効なものとする観点での方策がとられているか。					
③ …					

法人評価と認証評価の関係の整理





平成25年度に向けて必要な検討

① 公立大学のミッションの明確化とふさわしい評価基準の検討

- COC機能の充実など、社会に対し、公立大学の特性について説明を尽くす必要がある。
- 公立大学のミッションが鮮明になるような評価基準を作る。

② 報告書の様式の検討

- 教育情報公表の徹底で「法令適合性の確認」を簡素化。
- 法人評価の結果、特色ある取組への評価を含めて、一覧形式に取り込む。

③ 公立大学の機能強化のための大学評価コミュニティの検討

- 大学を支援する視点を持った継続的対話により、評価に納得感を得る。
- 大学評価コミュニティを評価担当者の学びの場として機能させる。
- 公立大学法人の場合、設立団体との間で留意すべき課題を研究。

平成25年度 公立大学協会事業計画

基本目標	方向性
1 地域社会と公立大学の創造的な連携をつくる。	(1)大学の地域の知の拠点(COC)事業について、国や地方公共団体に対し積極的な提案を行う。 (2)COC機能に応じた教育カリキュラムなど、必要な方法論についての検討を行う。
2 公立大学の機能充実のための検討を行う。	(1)「公立大学政策・評価研究センター」を設置し、公立大学に関する政策や、法人評価・認証評価の課題について調査・研究する。 (2)フォーラムやワークショップの開催を通じて、会員校間の交流を密にし、公立大学のコミュニティーを創る。
3 公立大学の学生とともに教育改革を推進する。	(1)平成24年度の学長会議で生まれた学生ネットワークを引き続き支援し、学長会議の際に合同のシンポジウム等を開催する。 (2)学生が大学COC機能の一翼を担えるような取組みや、学生による大学改革(例:FD活動)への参画を支援する。

11

【公立大学政策・評価研究センター】



趣旨

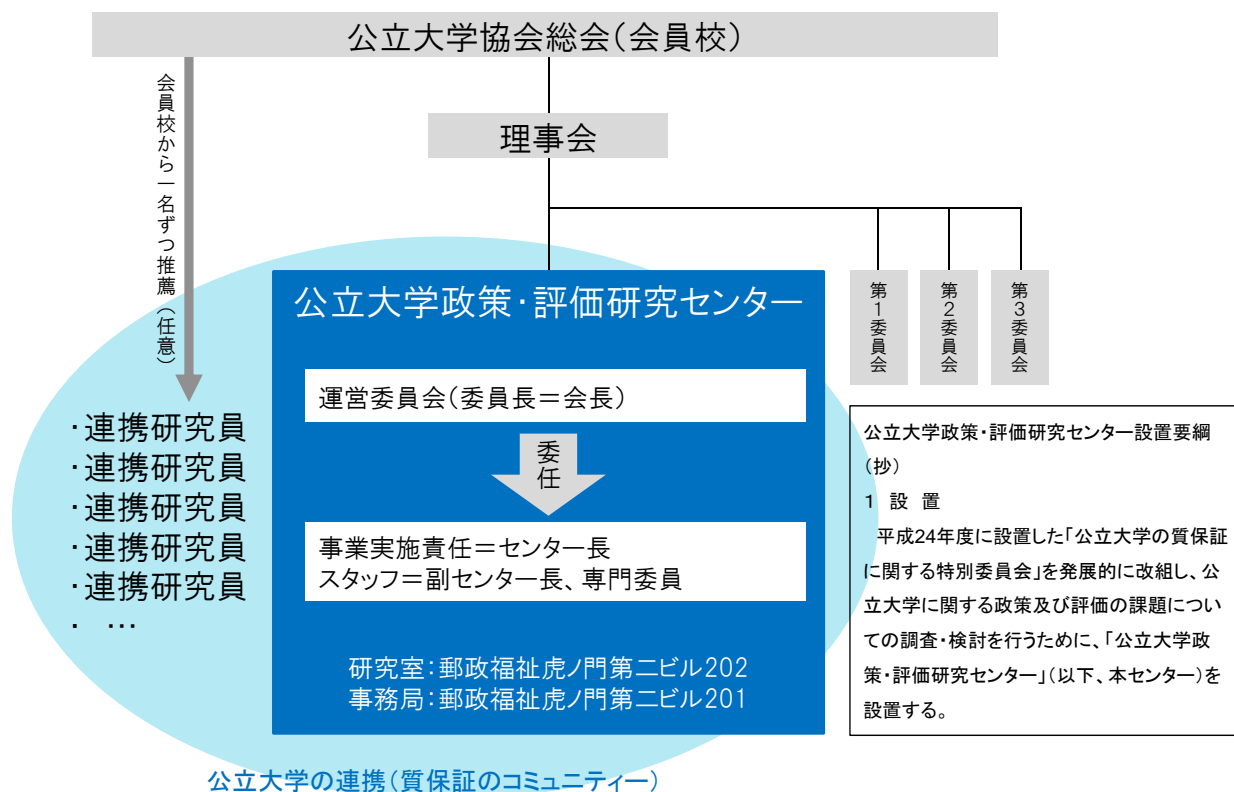
平成24年度に公立大学の質保証の課題について、新たな認証評価機関の設立を念頭において、検討を行った。その結果を踏まえ、続くプロセスとして「公立大学政策・評価研究センター」を協会内部に設置し、当面以下の目標を掲げながら、3年程度をかけ、今後の活動の方向性を探る。

目標

- ① 「大学評価ワークショップ」の試行的な実施を通じて、認証評価及び公立大学法人評価に活用できる、外部評価としての「大学ピアレビュー」モデルを作成する。
- ② 公立大学法人評価に関する情報を収集し、法人評価のあり方に関して参考となる資料を作成する。

12

概念図



運営委員会

	所属	氏名	備考
委員長	静岡県立大学長	木苗直秀	会長
委員	岩手県立大学長	中村慶久	副会長
〃	大阪府立大学長	奥野武俊	顧問
〃	兵庫県立大学長	清原正義	副会長
〃	北九州市立大学長	近藤倫明	副会長
〃	兵庫県立大学教授	浅田尚紀	相談役
〃	公立大学協会	中田晃	事務局長

研究スタッフ(当面は暫定的な構成で進める)

	所属	氏名	備考
センター長	兵庫県立大学教授	浅田尚紀	相談役
副センター長	岩手県立大学特任教授	佐々木民夫	
専門委員	青森公立大学長	香取薫	
〃	福岡県立大学長	柴田洋三郎	
〃	元愛知県立大学長	森正夫	相談役
〃	公立大学協会	中田晃	事務局長

質保証の課題に関するセッション・勉強会

- 高等教育改革フォーラム① 7月30日(火)メルパルク東京
第1部「第2期の認証評価と大学の内部質保証」
第2部「公立大学政策・評価研究センターのめざすもの」
- 大学評価ワークショップに関する研究会 8月29日(木)@長崎県立大学
- 大学評価ワークショップ先行実施 (10月で日程調整)
- 大学評価ワークショップ試行実施 (11月以降で調整)
- 高等教育改革フォーラム② 12月2日(月)@メルパルク東京
「評価WSの成果報告」(仮)
- 評価担当者協議会 12月3日(火)@メルパルク東京
- 高等教育改革フォーラム③ 2月14日(金)@東京グランドホテル
「公立大学法人評価の新展開」(仮)

15

「大学評価ワークショップ」

1 趣旨

- 公立大学政策・評価研究センターは、公立大学協会の会員校がワークショップ形式で相互に大学評価を行う「大学評価ワークショップ」(以下、ワークショップ)を企画・実施する。
- 評価を受審した大学は、内部質保証に関する知見を得るとともにワークショップの結果「大学ピアレビュー」を外部評価の一つとして活用する。
- 評価に参加した大学は、評価側の立場を経験することを通じて、大学評価や内部質保証を担う人材を育成する。

2 評価項目(支援項目)

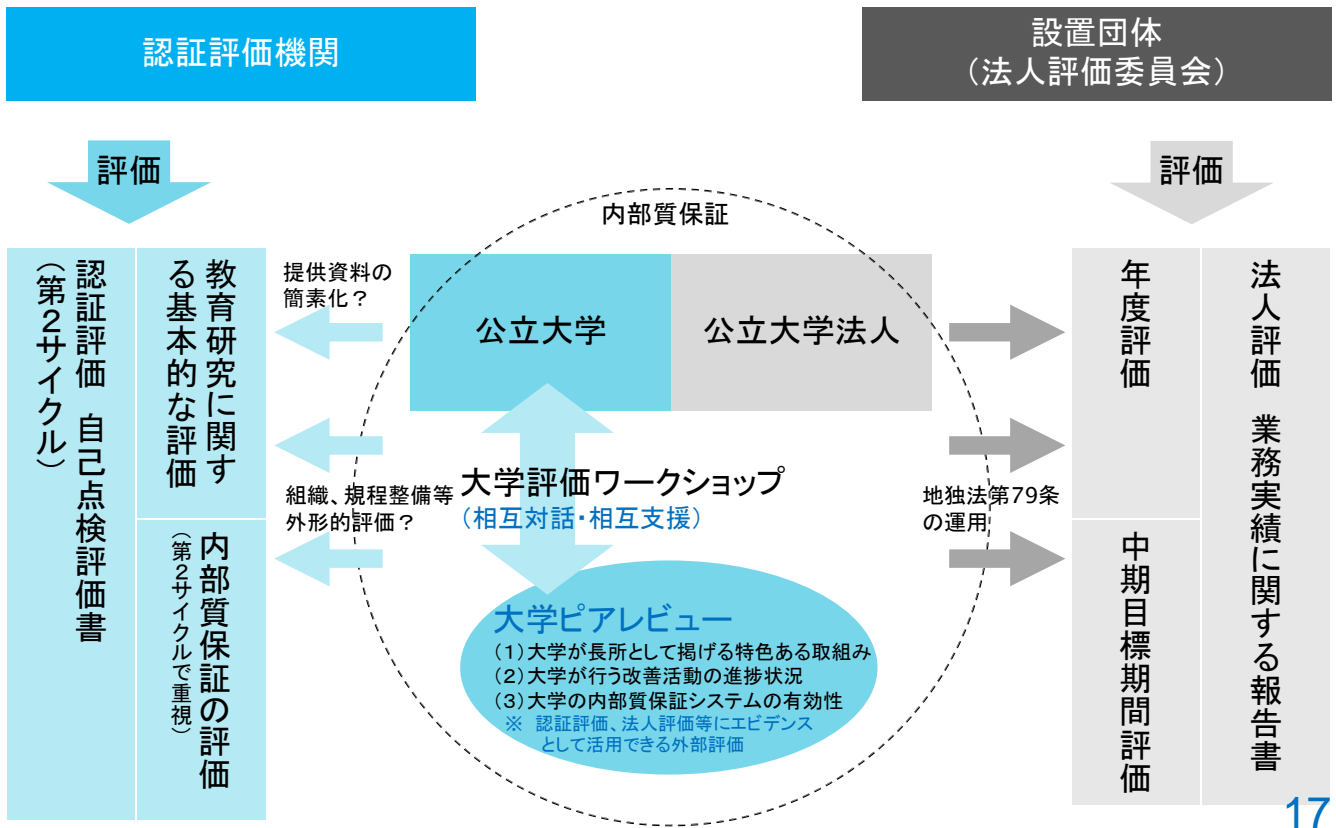
- (1)大学の特色ある取組みに対する評価
(長所の発見とさらなる向上策の検討)
- (2)各種評価結果を受けて実施した改善活動に関する評価 (課題発見と改善策の検討)
- (3)内部質保証システムの機能に関する評価 (内部質保証に関する方法論のディスカッション)
- (4)大学評価ワークショップ自体の評価
(自由な対話を通じて評価実績の蓄積)

3 「大学ピアレビュー」が示す重要事項

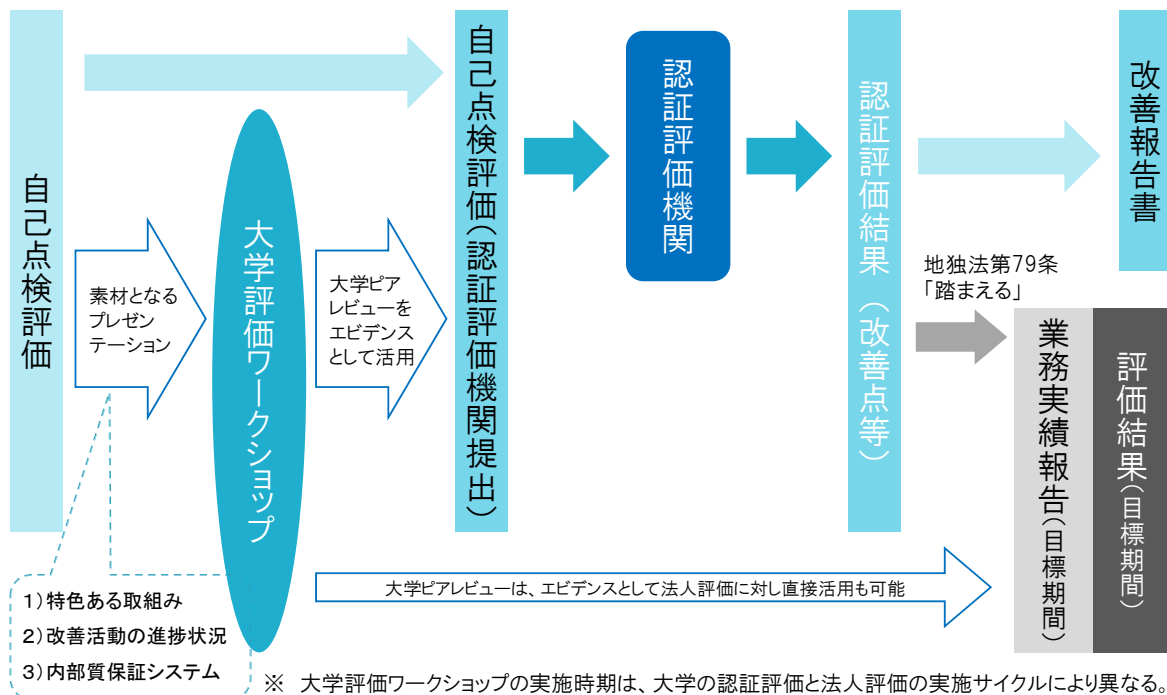
- (1)大学が長所として掲げる特色ある取組み
 - (2)各種評価結果を受けて大学が行う改善活動の進捗状況
 - (3)大学の内部質保証システムの有効性
- ※ 認証評価、法人評価等にエビデンスとして活用できる外部評価とする

16

大学評価ワークショップは外部評価「大学ピアレビュー」を提供



大学評価ワークショップと他評価との実施フロー例



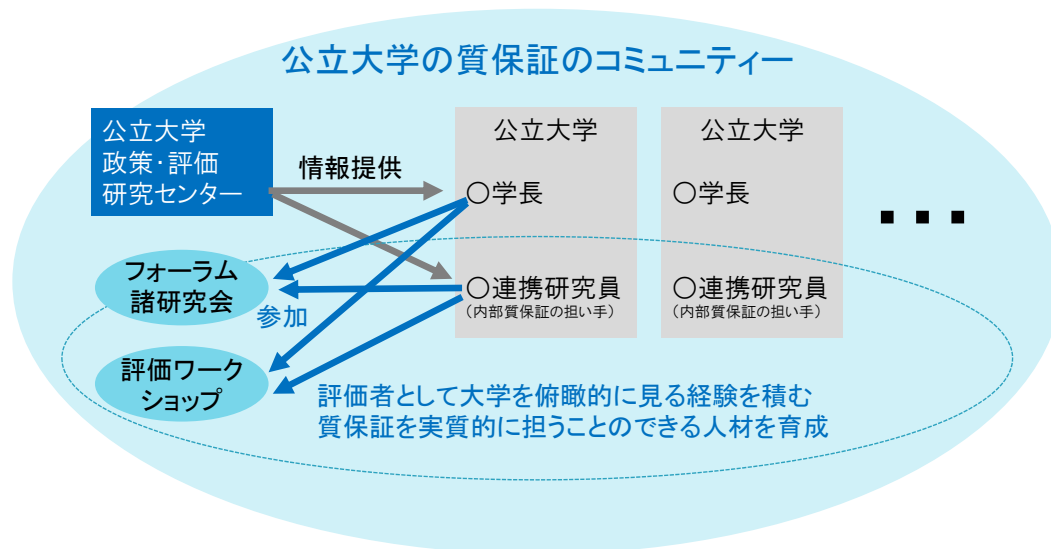
連携研究員

●「連携研究員」とは

センターの行う活動にボランティアに参加する会員校の協力者。評価の取組み・情報に触れる機会を共に作り、公立大学の質保証のコミュニティーの核となる存在。

●「連携研究員」の役割

- ① センターの情報のキャッチ(センターからの情報は「連携研究員」にも直接お届けします)
- ② センターの研究活動(研修会などのイベント、テーマを決めた研究会)への積極的参加(その都度、意向を確認)



19

連携研究員への期待

大学側の期待

- ◆ 大学評価制度に関する最新情報の入手
- ◆ 他大学の評価に関する課題と対応状況の情報共有
- ◆ 内部質保証を担う人材の育成

センター側の期待

- ◆ 高等教育改革フォーラムへの参加
- ◆ 大学評価ワークショップへの協力(受審、評価)
- ◆ 公立大学質保証コミュニティー形成への協力

20